

タイトル:平成 29(2017)年度 教育セミナー(第 13 回)

日時:2017 年 9 月 14 日(木)~17 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室(303)

高見 要 (大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻)

修士 1 年目である私にとって初めての中東☆イスラーム教育セミナーでした。首都圏外の大学院で学ぶ私には中東地域について学んでいる大学院生の研究進捗を聞かせていただく機会はそれほど多くありません。そこでさまざまな大学から多数の大学院生が集まる場で、みなさんの研究の進み具合や目標をお聞きしたいと考え参加しました。

実際に参加してみると、想像していた以上に刺激的で学ぶことの多いセミナーでした。本セミナーは受講生による研究発表と、講師の先生方によるセミナーの二本立てになっています。それぞれについて感想を述べたいと思います。

まず受講生による研究発表です。参加者 16 名中 7 名によって発表が行われました。受講生が日本各地の様々な研究科から集まってきていることを反映し、発表内容は多様な地域・分野にわたっていました。直接に自分の研究テーマと結びつくものではありませんでしたが、どれも斬新な着眼点をもったもので大変興味深いものでした。さらに質疑応答では活発に質問・コメントが行われました。発表者・質問者それぞれの問題意識から行われる議論を自分の問題意識にひきつけつつ理解することで、これからの自らの研究につながる学びを得ることができました。

講師の先生方のセミナーもまた、大変有意義なものでした。第一線で活躍されている先生方のお話が興味深いものであることは言うまでもありませんが、このセミナーが特に貴重であるのは、さまざまな研究領域の先生方が集まってくださっていることによるのだと思います。地域研究を志す者として「幅広い視野を持たなければいけない」というのはよく言われることですが、限られた時間のなかで自らの研究テーマ周辺ばかりに目を向けてしまうことも事実です。そのような中で、このセミナーでは幅広く自分からはなかなか足を運ばないような講演をお聞きすることができ、中東イスラーム地域研究の広大さを再認識しました。さらに先生方の来し方についてもお話いただき、研究者としての人生哲学についても学ばせていただきました。

この場で学んだことを足掛かりとし、今後の研究につなげていきたいと思います。そして来年度にはみなさんの前でその成果を発表したいと考えます。そういった目標としても、毎年行われているこのセミナーは修士課程に在籍する大学院生にとって大変有意義なものであると思います。

最後になりましたが、このような場を設けてくださってスタッフの先生方、事務局の方に厚く御礼申し上げます。今後とも末永く継続していただけますようお願いいたします。